

香合「かぼちゃの花」 かぼちゃの花は黄蝶貝の厚貝、実は青と緑がかつた部分を交互に用いた薄貝で螺鈿を施す。炭粉と漆で葉を高く盛り上げた上に梨地粉と丸粉を蒔いて漆で固め、金粉を研ぎ出すなど、花、葉、実それぞれ違った表情を表現した豪華な香合です。

香合「桃に文鳥」 桃の花は、夜光貝と鮑の厚貝。花は一輪ずつ糸鋸で切り出し、レリーフして貼り合わせたもの。花芯と見立てた平目粉や鮑貝の桃色の濃い薄貝の蕾、炭粉と漆で仕上げた枝や文鳥など、多様な技術と多彩な色彩を盛り込んだ香合。迫力がありつつ、かわいらしく仕上げました。

香合「鳳凰」 鳳凰の目と尾の一部に青貝を配し、尾は梨地粉を散りばめ、丸粉で輪郭を際立たせた豪華で迫力のある香合。金粉の種類や粗さを文様に応じて自在に使い分けて表現に変化をもたせました。



矢代 大樹

1978年東京生まれ。2008年京都伝統工芸大学校蒔絵専攻を卒業後、下出蒔絵司所に入所し、蒔絵師・下出祐太郎氏に師事。師の下で皇居・松風の間の拭き漆飾り棚、伊勢神宮第62回式年遷宮御神宝蒔絵、高台寺蒔絵復元的制作屏風の制作に従事。2012年「京もの認定工芸士」認定。2013年独立。

メール atelier.shakankan@gmail.com

螺鈿の輝きを取り入れた

蒔絵を漆器以外にも

漆黒に施される蒔絵の金、螺鈿の輝き。その美しさを漆器だけに留まらず、さまざまなものに施すことで、漆の魅力と工芸の可能性に挑戦。とりわけ、完成された美を誇る京蒔絵の意匠美と技法の奥深さを伝えていける作品を制作したいと願っています。螺鈿を効果的に取り入れたデザインの色彩豊かで絢爛華麗な作品を創作しています。京蒔絵のすばらしさや、漆の魅力、ものづくりの楽しさを伝えられるようなものづくりを心がけています。

◆京もの認定工芸士とは…

京都の伝統工芸品(京もの)の製造に従事し、特に優れた技術をもった意欲ある若手職人に京都府知事から授けられる称号。



京もの認定工芸士 第76号

やしろ
大樹
だいき